



R7年度

留学の手引

STUDY ABROAD

海外留学支援プログラム

【趣旨】

本学の設置理念の一つである「国際化社会に対応する広い教養と豊かな情操を備えた人材を育成すること」を実現するため、海外留学を通じて生きた英語を学び、異文化交流を体験する機会を提供します。



大学ウェブサイト
海外留学支援プログラムのページ

【内容】

- 往復渡航費及び授業料(対象事業費)の一部を奨励金として交付します。
 - ・長期奨励金(6ヶ月以上1年未満) : 対象事業費の1/2を交付(40万円が上限)
 - ・短期奨励金(2週間以上6ヶ月未満) : 対象事業費の1/2を交付(20万円が上限)
 - *奨励金の交付にあたっては成績条件や人数制限はありません。
 - *基本的な条件さえ満たせば誰でも奨励金を予算の範囲内で受給できます。
- 留学・研修先の単位を、本学の単位に読み替えます。

【留意点】

- ◎本プログラムを利用する場合は必ず単位の読み替えが必要となります。
- ◎本プログラムの利用にあたっては、留学説明会・研修会等に参加し、必要書類を外国語教育研究所に提出してください。
- なお、本プログラムを利用しない場合であっても、研究所へ必要書類を提出してください。
- ◎奨励金の支給時期は、留学・研修実施後となります。



大学ウェブサイト
留学関係提出物一覧のページ

【単位の認定】

留学先の授業時間及び内容に応じて、本学の授業科目等に読み替え、単位を認定します。

※単位認定に関する詳細は、事務局教務係へ必ず確認をしてください。

・文学部

語学研修の場合20時間、実地体験の場合30時間で1単位
短期の場合、教養教育科目や外国語科目及びコミュニケーション科目等に読み替える。
長期の場合、留学先で修得した科目に相当する科目に読み替える。

・国際コミュニケーション学部

短期:20時間で自律学習(海外語学実習)1単位
長期:留学先で修得した科目に相当する本学の科目または英語系科目に読み替える。
正規授業は1単位取得で1単位、語学学校は20時間で1単位
海外インターン、海外ボランティア:シラバス参照

外務省の海外安全情報をよく確認してください。

不明な点は、必ず、事前に、外国語教育研究所に相談してください。



1. はじめに

この手引には、留学に関する様々な支援内容や申請方法等について詳しく書いてありますので、内容をよく読み、それぞれ自分に合った留学を実現させてください。

2. 留学の目的

留学を進めるにあたって、まずしっかりとした目的を持ち計画を立てることが重要です。「ただなんとなく周りが留学しているから私も行きたい」ということでは、実りある留学はできず時間とお金の無駄になってしまいます。**「なぜしたいのか、どのようにしたいのか」**を考えてみてください。

そして、様々な情報を収集しながら、「実現するための手段・方法」を見つけましょう。目的が明確になれば、より充実した留学生活を送れ、納得のいく結果に結びつくことになります。

3. 海外留学支援プログラム

留学情報の提供及び諸手続についての個別相談など海外留学を行う学生をサポートし、往復渡航費及び授業料（対象事業費）の一部を奨励金として交付します。

長期奨励金（6ヶ月以上1年未満）・・・対象事業費の1/2を交付（40万円が上限）

短期奨励金（2週間以上6ヶ月未満）・・・対象事業費の1/2を交付（20万円が上限）

本プログラムの利用にあたっては下記の留学説明会・研修会等に必ず参加し、必要書類を外国語教育研究所（以下、研究所）に提出してください。

留学説明会等日程

以下のとおり説明会等を予定しています。日程が決まり次第、ポータルサイト等でお知らせします。

	説明会	内容	
	オリエンテーション	2025年 4月3日	留学の概要説明
短期研修 (夏季または春季休業中に行うもの)	令和7年度 夏季短期	2025年 4月14日, 15日 4月21日～25日 5月中旬 6月上旬 6月下旬 7月中旬 7月下旬	概要説明, 応募手続の説明, モデルコース業者説明会 奨励金申請手続の説明, 単位説明会 海外留学保険説明会 群馬県親善学生大使事前研修会 群馬県親善学生大使委嘱状交付式 海外危機管理セミナー・最終渡航説明会
	令和7年度 春季短期	2025年 10月上旬 10月中旬 11月中旬 12月中旬 2026年 1月中旬 1月下旬	概要説明, 応募手続の説明, モデルコース業者説明会 奨励金申請手続の説明, 単位説明会 海外留学保険説明会 群馬県親善学生大使事前研修会 群馬県親善学生大使委嘱状交付式 海外危機管理セミナー・最終渡航説明会
長期留学	令和8年度 長期留学 前期出発	2025年 8月下旬 9月下旬 11月中旬 12月中旬 2026年 1月中旬 1月下旬	概要説明, 応募手続の説明, 留学経験者による報告・座談会, 交換留学(韓国)説明会 交換留学(中国, 台湾)説明会 奨励金手続の説明, 単位説明会 海外留学保険説明会 群馬県親善学生大使事前研修会 群馬県親善学生大使委嘱状交付式 海外危機管理セミナー・最終渡航説明会
	令和8年度 長期留学 後期出発	2025年 12月上旬 2026年 1月中旬 5月中旬 6月上旬 6月下旬 7月中旬 7月下旬	交換・派遣留学(マレーシア, フィリピン, ハワイ)説明会, 留学経験者による報告・座談会 概要説明, 応募手続の説明 奨励金手続の説明, 単位説明会 海外留学保険説明会 群馬県親善学生大使事前研修会 群馬県親善学生大使委嘱状交付式 海外危機管理セミナー・最終渡航説明会

※留学期間が2ヶ月以上～6ヶ月未満の人は、長期留学の説明会に参加してください。
 ※本プログラムを利用せずに留学する場合であっても、研究所にその旨を知らせる必要があります。
 特に、単位認定を希望する場合は、書類の提出が必要です（3ページ「7. 単位の認定」参照）。
 締切日については、その都度ポータルサイト等でお知らせします。

4. 留学の種類

留学の種類は、以下のとおり様々な形が認められています。ぜひ研究所に相談に来てください。

- (1) 大学での正規授業履修
 - (2) 語学研修・・・語学学校での語学学習を目的としたもの(ただし成績評価のある学校)
 - (3) ボランティア研修 ※・・・海外の学校で日本語指導助手など
 - (4) インターンシップ研修 ※・・・海外の企業で行う就業体験等
 - (5) フィールドワーク研修 ※・・・各自テーマを設定し、海外で行う現地調査
- ※(3)～(5)については、夏季または春季休業中のみとします。

5. 長期留学について

留学中も在学期間に含まれており、**留学先の単位が卒業単位として認定される（3ページ「7. 単位の認定」を参照）**ので、**4年間で卒業することが可能です。海外提携大学への留学または認定留学の2種類があります。**

(1) 海外提携大学への留学

本学では、以下の大学と協定を締結しています。留学の手続きは研究所が中心となって行います。

- ①交換留学協定校・・・本学の学費を払い、留学先の学費は免除されます。学内選考あり。
- ②特別留学生派遣協定校（派遣留学）・・・本学の授業料は免除され、留学先に学費を支払います。
学内選考の場合あり。

	大学名	募集人数	条件	語学学校	出発
①	デ・ラサール大学（フィリピン）	2名	GPA3.0以上	なし	8月
	マラヤ大学（マレーシア）	2名	語学力要件あり	なし	8月
	高麗大学校（韓国）	2名	GPA2.5以上かつ申請時点で2年生以上	あり	2月
	蘇州大学（中国）	2名	中国語能力認定試験（HSK）3級程度	あり	3月
	大連外国語大学（中国）	1名	（達していない場合は語学学校スタート）	あり	3月
	国立高雄科技大学（台湾）	2名	TOEFL PBT500（iBT53）以上 （中国語で行われる授業を履修する場合は中国語能力認定試験（HSK）3級程度）	なし	2月
②	ハワイ大学ヒロ校（アメリカ） （派遣留学）	5名	・ GPA3.0以上 ・ TOEFL iBT61以上またはIELTS5.5以上 または英検2級でスコア2150以上またはDuolingo90以上 （上記条件が望ましい）	あり	8月

(2) 認定留学

各自で自由に世界中から留学先を選ぶことができます。本学の授業料は免除され、留学先に学費を支払います。留学の手続きは各自で行うことになります。

6. 短期研修のコースについて

夏季または春季休業期間を利用した留学です。モデルコース、独自設定コースの2種類があります。

(1) モデルコース

研究所が提供する、研修内容、期間、飛行機の便などが設定された研修コースです。モデルコースの中から希望のコースを選び、申し込みます。

モデルコース研修例

語学研修 (R6年度実施コース)

オーストラリア…ロイヤルメルボルン工科大学附属英語学校, 西オーストラリア大学附属英語学校
ニュージーランド…オークランド大学附属語学学校
アイルランド…リムリック大学附属語学学校
カナダ…サイモンフレーザー大学, ビクトリア大学イングリッシュランゲージセンター
アメリカ合衆国…インディアナ大学インディアナポリス校, ハワイ大学マノア校
韓国…弘益大学校語学堂, 慶熙大学言語教育院語学堂

ボランティア研修 (R6年度実施コース)

オーストラリア…幼稚園アシスタントティーチャー

インターン研修 (R6年度実施コース)

オーストラリア…企業インターン研修
ニュージーランド…日本語教師インターンシップ

フィールドワーク研修 (R1 実施コース)

ヨーロッパ…美術研究フィールドワーク

(2) 独自設定コース

各自で自由に研修先を選ぶことができます。語学研修の他に、ボランティア研修、インターンシップ研修、フィールドワーク研修も設定できます。研修先に関する情報収集、研修計画、入学・渡航手続きなど、必要な手続きのほとんどを各自で行います。

7. 単位の認定 ※留学の単位認定に関する詳細は、事務局教務係へ問い合わせてください。

留学先の授業時間及び内容に応じて、本学の授業科目等に読み替え、単位を認定します。

・文学部

語学研修の場合**20時間**、実地体験の場合**30時間**で1単位

短期の場合、教養教育科目や外国語科目及びコミュニケーション科目等に読み替える。

長期の場合、留学先で修得した科目に相当する科目に読み替える。

※ただし、成績評価が出た場合に限る。(修了証は不可)

・国際コミュニケーション学部

短期：**20時間**で自律学習（海外語学実習）1単位

長期：留学先で修得した科目に相当する本学の科目または英語系科目に読み替える。

正規授業は**1単位**取得で1単位、語学学校は**20時間**で1単位

海外インターン、海外ボランティア：シラバス参照

◎本プログラムを利用する場合は必ず単位の読み替えが必要となります。

◎本プログラムを利用しない場合であっても、研究所へ必要書類を提出してください。

8. 危機管理システム及び留学保険

本学の危機管理システムへの登録を必須とします。説明会に必ず出席してください。また、海外留学保険についても、危機管理システムと連携しているものに全員加入してもらいます。

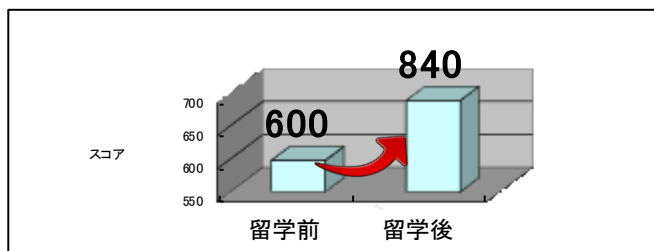
9. 留学のすすめ

留学をしたいと強く思っている人もいれば、「お金もかかるし、心配なことも多い」と悩んでいる人もいるかもしれません。留学を経験した学生から「留学をして本当に良かった」という多くの声を聞きます。県女に入学したからには自分の殻を1つ破って「できない不自由」に挑戦してみませんか。

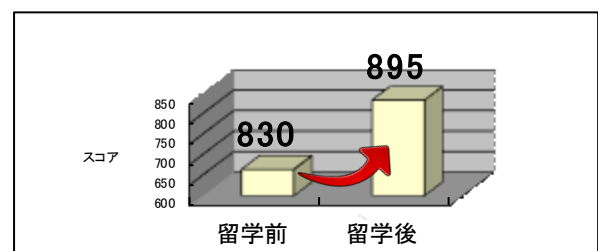
メリット1 語学力がのびる

真面目に勉強してくるからこそ大きく伸びます。下のグラフは留学に参加した学生のTOEIC-IPスコアが留学前後にどのように推移したかを示したものです。

〈短期研修〉Aさん（4週間）



〈長期留学〉Bさん（7ヶ月間）



メリット2 自信や度胸がつき、価値観が広がる

バスに乗ったり、スーパーで買い物したり、携帯を契約したりと様々なことを体験していきます。言葉が不安な中、ドキドキ・ハラハラですが、自分で行動することによってできた！という自信をもてるようになります。また、地元の人との交流を通して、色々な考え方に触れ、その考えを受け入れる力が付き、自分の価値観が広がります。

メリット3 異文化理解が深まる

異文化に触れることによって、自分で当たり前だと思っていたことが世界では当たり前ではないことに気づかれます。物事を相対化できるようになり、相手の文化的背景を理解できるようになります。

メリット4 いろいろな人々と出会える

ホームステイ先の家族や、寮や学校での留学生と友人になれます。日本人同士では思いもつかないような価値観・考え方に出会えることは刺激的です。ネットワークを広げることで、どんな相手ともコミュニケーションをとることができ、コミュニケーション能力が鍛えられます。

メリット5 就職活動でアピールできる

留学ただけでは不十分ですが、成果や成功体験がアピール材料となります。

まだまだありますが、留学のメリットとして「内面的な成長」を挙げる学生が多いです。留学は楽ではありませんし、安くありません。しかし、観光旅行では得られないものがたくさんあります。みなさんも在学中に1度は短期、長期を問わず留学してみたいはいかがでしょうか。

10. 留学の流れ

留学の実現までの基本的な流れを知り、自分の目的にあった留学先を選び、一つひとつの手続きを焦らず自分自身の手で進めていきましょう。

1	チェック欄	留学したい国、学校の絞り込み	情報収集には時間がかかるので、 短期は半年前、長期は1年以上前から情報収集を開始 。ネットや本、研究所のレポートなどで複数の資料を取り寄せ、希望する内容や入学条件が自分に合うものを絞り込んでいく。また、成績証明書及び修了書の発行が可能か確認する。
2		出発時期・期間の決定	就職や卒業への影響を考え、なるべく早い時期での留学を考えること。就職等で不安に思うことは、事前に担当教授や事務局学生係へ相談のこと。
3		資金計画	短期は40～90万円、長期は250万程度必要（学費、寮費などを含む）。
4		英語能力試験	TOEFL、IELTS、TOEIC 等、留学条件となる試験を受験しておくこと。
5		はしかの抗体検査	はしか（できれば、風疹、水ぼうそうも）の抗体の有無について、母子手帳等から確認できない場合、病院で 抗体検査 を行い、抗体がない場合、必ず ワクチン を接種。
6		参加申込書類の提出	作文、資料等を添付し、 <u>研究所</u> へ提出。詳しくは説明会配付資料を参照。
7		担当教員による面接（長期のみ）	必ず事前にアポイントをとりましょう。面接後は、留学願及び推薦書（国際の学生は面接報告書）の記入を依頼→ <u>研究所</u> へ提出→後日「留学許可書」を大学より発行→研究所より交付
8		授業料徴収免除申請（長期のみ）	授業料徴収免除申請書に「留学許可書」の写しを添えて <u>学生係</u> へ提出。半年の場合は1枚、1年の場合は2枚提出する必要がある。
9		入学・入寮申込	申込後、留学先（大学、語学学校等）の指示に従い送金する。（ <u>研究所</u> へ授業料の領収書を提出）→滞在先の情報は家族にも必ず伝える。
10		入学許可書受取	入学許可書が届いたら、ビザの申請や入国の際に提示が必要。 送金後3週間経っても届かない場合は大学に確認 。
11		パスポート（旅券）の申請	留学を考え始めたらできるだけ早くパスポートを取得すること。居所申請（住民登録地以外での申請）も可能。有効期限が1年未満になると、新しいパスポートに切り替えることができるので、留学中有効期間が切れたりしないよう注意すること。（注意）2025年3月24日の申請受理分からは「2025年旅券」の発行が開始され 申請から交付までは2週間程度と、これまでよりも長い時間がかかります。
12		ビザ（査証）の申請	ビザの要・不要、必要書類は <u>国や留学期間によって異なり</u> 、予告なく変更もあるので、 必ずウェブサイト等で最新情報を確認 。高校の成績証明書が求められている場合、早めに依頼すること。
13		電子渡航許可の申請	12 のビザとは別に、入国するために電子渡航許可が必要な国があります。クレジットカードを利用し、必ず事前に申請しておくこと。

14	出発日の確定	片道分あるいは帰国日の変更可能なオープンチケットを購入。領収書の写しを <u>研究所</u> へ提出。学校開始より少し早めに渡航し、滞在先や学校周辺の様子を把握するなど、現地の生活に慣れることも重要。
15	現地通貨の用意	全て現金で用意せず 、クレジットカード（番号を控えておく）を上手に利用する。長期の場合、現地で口座を開設し、日本から送金してもらうのも安全な方法の一つ。
16	海外留学保険への加入	滞在中、いくら万全の注意を払っても病気になってしまったり事件事故に巻き込まれることがあるので、保険の適応範囲、限度額を確認し、大学と提携している海外留学保険に 必ず加入 してもらいます。
17	「たびレジ」への登録 「在留届」の提出	滞在が3ヶ月未満の場合、外務省が行っている「たびレジ」に登録すること。渡航先の在外公館から緊急時情報が無料で送られてきます。 3ヶ月以上滞在する場合、日本の大使館又は総領事館（在外公館）へ在留届を提出することが義務づけられているので、留学先へ到着後はすぐに提出すること。事件に巻き込まれたときなど、安否の確認が迅速に行われる。詳細は外務省HPを参照。
18	緊急連絡先の把握	万が一事故にあった場合に備え、日本大使館（領事館）、本学、留学先大学、保険会社、旅行会社、クレジットカード会社などの連絡先を控え、 留学中は携帯 する。
19	安全情報の確認	出発前に、必ず外務省海外安全ウェブサイト等から、 最新の 情報や犯罪の傾向等を把握。

（２）留学中

1	近況報告	家族や担当教員、研究所へこまめに 近況 を伝える。特に事件事故の場合や、留学内容の変更に係る相談の場合は至急連絡。 <u>長期の学生は、到着後、連絡先（住所、電話番号、日常的に使用可能なメールアドレス等）が決まり次第必ず研究所へ連絡すること。また、研究所や大学からの連絡にもすぐに対応できるよう、メール等こまめにチェックすること。</u>
2	安全の確保	日本と同じ感覚で行動したり、留学先での開放感から日本ではしない行動をとることは大変危険。 多額の現金や貴重品は持ち歩かない。
3	カルチャーショックへの対処	外国では自分と価値観が違って当然。それが認められれば、生理的に受け付けなかったものに対しても安心感を持てるようになるでしょう。留学を途中で切り上げるのは最終手段。できるだけ自力で乗り越えるよう努力しましょう。異文化を理解し認めることこそが留学の神髄であり、醍醐味です。
4	ホームシックへの対処	寮長やホストファミリーにその旨話し、必要に応じ家族などに電話で話をする。最も効果的なのは、現地で楽しいことを探すよう努力したり、何でも話せる友達やホストファミリーを作ること。多少の波があってもそのうち自然と治るので、あまり精神的に無理をせず、長い目で付き合うことが大切。

(3) 留学後

1		帰国日	留学・研修のすべてのプログラムが終了後、1週間以内に帰国すること。
2		帰国の報告	帰国後 すぐに 、家族や担当教授、研究所へ連絡。 連絡先 (住所、電話番号、メールアドレス)についても変更次第伝えること。
3		単位の申請	帰国後2週間以内に、申請書、成績証明書、修了証、授業内容・時間がわかるもの(トータルの時間数を記入)を 教務係 へ提出。
4		関係書類の提出	帰国後 2週間以内 に、必要な書類を 研究所 へ提出。詳細は説明会資料を参照。
5		TOEICの受験	年に数回学内で実施されるので、スケジュールを確認。
6		親善学生大使	短期研修：帰国後2週間以内に、報告書を研究所へ提出。 長期留学：留学中に報告書を研究所へ提出。(提出期日等は研究所より連絡)

1.1. 留学の要件(正規の授業科目の履修に必要なもの)

海外の大学では、それぞれ異なった条件で、留学生の入学資格や条件を設けています。また、交換留学生か私費留学生かによっても条件は異なります。これらを確認するには、各大学が発行する大学要覧(catalog/bulletin/brochure)や学部別要覧(departmental brochure)、あるいは大学公式ウェブサイトで調べることができます。必ず確認するようにしましょう。

(1) 英語能力試験

十分な英語力があるということは、留学の大前提です。留学すれば自然と高まるものではありません。当然のことながら、授業は全て英語で行われるわけですから、ネイティブスピーカーの学生と同等にやっていけるだけの英語力が必要です。さらに、論文の執筆やディスカッション、研究発表の機会も多く、高度な英語力が要求されます。このため、海外の大学の多くは、留学前に英語能力テスト(米国は**TOEFL**、英国は**IELTS**)の受験を義務づけ、その結果を入学審査の重要な判定材料としています。できるだけ早く必要なスコアを取得するように頑張ってください。

※TOEFLテストについて

現在行われているTOEFL公式テストは、iBTテストのみです。本学で行われるのはTOEFL TEST ITP(団体向けテスト)です。ITPを受けた場合はPBTスコアとして算出されます。換算表で確認が必要です。ITPは正式なスコアと認定されませんが、iBTよりもずっと安く手軽に受験できる利点があります。また交換留学の学内選考にはITPスコアが利用できます。詳しくはTOEFL公式HPをご覧ください。

TOEFL ITPテストは年2回実施予定です。詳細は学内掲示を見てください。将来的に(英語圏大学への)長期留学を希望している学生でTOEFLを受けたことがない学生は、まずITPテストを受験することをお勧めします。

(2) 学業成績

学生が一定水準以上の学業成績を修めていることは、海外の大学に入学するための重要な要件の一つです。米国の成績評価法は、主に5段階(A, B, C, D, F)で行われていますが、入学審査や奨学金の査定には**GPA**(Grade Point Average)というものが使われます。成績を平均点で換算したもので、米国の大学への留学にはB(GPA=3.0、「良」に相当)以上の成績を要求されることがほとんどです。

1 2. 留学先情報収集

(1) 情報源

- ・ 本学留学説明会（年に数回実施）留学体験者の話や奨学金、モデルコース、協定校などの情報。
- ・ 各学部学科留学担当教員
- ・ 留学経験者のレポート（研究所で閲覧可能）
- ・ 留学フェア（各国の公的機関や斡旋業者の情報提供や留学相談）
- ・ 日本学生支援機構（JASSO）海外留学情報ページ



※留学は、自分で考え、判断し、進めることが第一ですが、手続などを斡旋業者に依頼する場合には、派遣実績や手数料、サービス内容、責任の範囲など、複数業者を比較検討して慎重に選びましょう。

(2) 必要な情報

- ・ 留学中・留学予定の日本人学生の皆さんへ（文科省Webサイト）
- ・ 外務省 海外安全ホームページ
- ・ 入学に必要な学力及び語学力（TOEFLのスコア等）
- ・ 学費及び生活費（自国の学生と留学生で学費は異なる）
- ・ 出願、手続方法（締切前でも定員に達すると募集を打ち切る場合がある）
- ・ 治安、生活環境、留学生の数
- ・ 専攻分野（自分の希望する専攻分野が充実しているか）
- ・ 大学施設、語学学校の有無



～コラム＜日本人が少ない学校について＞～

「日本人が少ない語学学校はどこか」という問い合わせを多く受けますが、日本人が少ない＝良い学校とは限りません。田舎や寒い地域、金額が高い、となると日本人が少ない傾向にあります。それが自分にとって合っているならいい目です。しかし、コース内容が良くないというのでは意味がありませんので、しっかり見極めましょう。

日本人数から派生する問題は、本人の心がけでどうにかなるものです（日本人以外との交流、日本語禁止ルール、サークル活動への参加等）。日本人が多いと感じても、プレイスメントテストで上位のクラスに入れば日本人はかなり少なくなります。日本人の数にこだわるよりも、留学までに英語力を伸ばすことが得策です。

13. 留学奨学金等について

(1) 第二種奨学金(短期留学)(独立行政法人日本学生支援機構の奨学金)

国内の大学等在学中に、海外の大学等に3ヶ月以上1年以内の期間、留学を希望する者を対象とした
貸与型(有利子)奨学金。申込書類の請求・問い合わせ先は本学学生係。

(2) ぐんま赤尾奨学財団 大学生海外留学奨学金給付制度

群馬県内の大学及び短期大学に在籍する学生に対し、海外留学費用の一部を給付。

種類は一般留学(60万円)と研修留学(30万円)の2種類。

詳細及び募集要項・申請書の問い合わせは外国語教育研究所まで。

(3) 地方自治体、民間団体の奨学金

ほとんどの奨学金は団体の性格を反映し、応募者の出身地域、専攻分野や留学対象国・地域などに限定があります。各制度の概要は、日本学生支援機構ウェブサイトの「海外留学奨学金パンフレット」をご覧ください。また、財団法人助成財団センターウェブサイトの「民間助成金ガイド」には、日本の助成財団による様々な助成制度が掲載されています。

<参考>

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」



※トビタテ！留学JAPANは、大学を経由して申請します。学内受付の開始や締切の期日については、ポータルサイト等でお知らせしますので留意してください。

「国際親善奨学金」(ロータリークラブ)



(4) 金融機関による教育ローン

国民生活金融公庫の「国の教育ローン」(6ヶ月以上の留学希望者が対象)のほか、その他の金融機関で留学の場合にも利用できるものもあります。詳しくは、最寄りの金融機関にお問い合わせください。

(5) 海外で募集される奨学金

留学希望先の学校の奨学金（授業料減免なども含む）と、現地の研究所や民間の団体による奨学金があります。これらについては、留学後、現地での方が情報を集めやすい場合もありますが、あらかじめ概要を把握しておくことは、資金計画を立てる際に重要です。

<応募にあたっての主なチェックポイント>

- * 給付型（返還不要）か貸与型か。
- * 応募時に日本の大学等の学生である必要があるか。
- * 学校の選択、入学手続きは、本人が行うのか、支給団体が行うのか。
- * 奨学金への応募の時点で、留学希望先校に合格している必要があるか。あるいは、奨学金への応募と留学希望先校への出願を同時進行することができるか。
- * すでに留学している場合も応募可能か。
- * 学生一般（現地学生も含む）が対象か、外国人留学生のみが対象か、特定の国出身者のみが対象か。
- * 成績優秀者に与えられるものか、経済状況に応じて与えられるものか。（後者の場合、先進国日本からの留学生よりも、発展途上国からの留学生が優先される可能性があります。）
- * 何らかの仕事、課題が義務づけられているか。

メモ：

留学を実現するためには、早めにTOEFLなどの留学先が求める英語検定を受験すると同時に、家族や先生に相談を始めましょう。外国語教育研究所（2号館6F）では留学経験者のアンケート回答集が閲覧できます。留学先や専攻を考えるのにかなり役立ちます。

令和7年度 留学の手引

群馬県立女子大学 外国語教育研究所 (2号館 6 F)

〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1

T E L : 0270-65-8511(代) F A X : 0270-65-9538

問い合わせ先 : flri-one@mail.gpwu.ac.jp メールアドレスQRコード →

